



たたら製鉄はその長い歴史の中で、出雲地方の暮らしや経済などさまざまな分野に影響を与えてきました。身近な景観や産物、伝統芸能の中には、たたらとの意外なつながりを持つものがあります。

たたらが育んだ仁多米と蕎麦

奥出雲地方の山間部によく見られる美しい棚田。その多くは、山を切り崩して土砂を水路に流しながら砂鉄を採取した「鉄穴流し」の跡地を活用したものです。鉄穴流しの後に蕎麦などの種を蒔いて土をつくり、その後、稲を植えて

日本遺産「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語

連載5 たたら製鉄と地域の意外なつながり

広大な棚田をつくりあげました。このようにして蕎麦や良質米がこの地域でつくられるようになり、今では出雲そばやブランド米として多くの美食家を魅了しています。私たちが何気なく見ている地域産品も、その歴史をたどるとた



▲美しい景観を形成する棚田の夕暮れ。



▲民謡安来節やどじょうすくい踊りなどは鉄の交易から誕生しました。

たらとの関わりがあることが分かります。

安来節 く鉄の交易がもたらした軽快な歌声

港町安来は、出雲・伯耆地方の

鉄の集積地として人々が交わる拠点となりました。そこに集う各地の船頭が唄う民謡などの影響を受けて「民謡安来節」が生まれたと言われています。今では、ユニークな「どじょうすくい踊り」とともに全国に知られています。実はその歌詞には鉄を馬や船で運ぶ様子など、鉄に関連したものが随所に唄い込まれています。島根を代表する伝統芸能も、たたらが育んだ文化の一つだといえます。

たたらに関する出前講座を実施します。詳しくは和鋼博物館（電話23・2500）へ。



安来市加納美術館だより 電話36-0880

「石見神楽で楽しむ神話と伝説の世界」 2月26日（日） 石見神楽を上演します

現在、企画展「山本陶秀と青戸慧—日本の心を視る—」を3月13日まで開催中です。

備前焼の山本陶秀と紙塑人形の青戸慧は、いずれも基本に忠実で、奇をてらうような演出をしない作家です。優雅で気品あふれる美しさが見る人の心を惹きつけます。なかでも注目されるのが青戸慧作「防人」（写真）です。奈良時代に九州警備のために出かけようとする兵士を表現したものです。家族と離れて遠く旅立つ農民の悲しみが漂っています。

会場には、このほかにも神話



▲青戸慧「防人」

「山本陶秀と青戸慧」展
《会期》3月13日（月）まで。
毎週火曜日は休館。
《開館時間》9時から16時30分。
ただし入館は16時まで。
《入館料》一般1000円、学生（高校生以上）500円、団体（20人以上）800円。

と伝説をテーマにした絵と人形が数多く展示されています。神話の世界に触れていただきたいと「石見神楽で楽しむ神話と伝説の世界」を開催します。（2月26日（日）午後1時開演、入場無料）。出演は浜田市の佐野神楽社中です。
おなじみの「大蛇」や「恵比寿」に加えて、この社中の代表的な演目「有明」を安来で初上演します。化け猫が障子を破って飛び出す迫力満点の神楽をお楽しみください。
詳しくは当館までお尋ねください。